

2014年1月16日

日本銀行大阪支店

近畿地域金融経済概況

【全体感】

近畿地域の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、輸出は、持ち直し傾向にあり、個人消費も、消費者マインドの改善などから、緩やかに持ち直している。設備投資は、持ち直しの動きが広がっている。公共投資は増加している。こうしたもとで、生産は緩やかに増加しており、雇用情勢も改善している。

先行きについては、海外経済、為替相場や金融市場、国際商品市況の動向などに注視が必要である。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、増加している。

輸出は、持ち直し傾向にある。

設備投資は、持ち直しの動きが広がっている。

個人消費は、消費者マインドの改善などから、緩やかに持ち直している。

百貨店販売は、高額品を中心に堅調に推移している。スーパーは、全体として横ばい圏内で推移している。家電販売額は、下げ止まりつつある。乗用車販売は、堅調に推移している。外食売上高は、持ち直している。旅行取扱高は、海外を中心に前年を下回っている。

住宅投資は、増加している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、緩やかに増加している。この間、在庫は横ばい圏内の動きとなっている。

生産を業種別にみると、一般機械が海外での設備投資向けを中心に増加している。また、輸送機械や白物家電などの電気機械も、堅調な国内需要を背景に増加している。一方、電子部品・デバイスはスマートフォン向けの一服から減少に転じた。この間、鉄鋼や化学は全体としては底堅く推移している。

3. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、労働需給は改善している。こうしたもとで、雇用者所得も改善の動きがみられている。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、プラス幅が拡大している。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、基調としては、前年比高い伸びが続いている。

貸出残高は、住宅ローンの増加などを背景に前年を上回っている。

預金金利は、低水準横ばい圏内で推移している。

貸出金利は、小幅ながら低下している。

以 上